令和2年度（2020 年度）

第 3 回熊本博物館協議会

令和 3 年（2021 年）3 月 25 日（木）午前 10 時

熊本博物館

次　第

1　開会

2　主催者挨拶

3　会長挨拶

4　議事

(1)令和元年度(2019年度)熊本博物館運営点検評価報告について（別添資料1）

(2)令和2年度 事業報告(概要)について（別添資料2）

(3)令和3年度 事業計画について

　ア　展示活動

　イ　博物館における教育・普及活動

　ウ　保存修理事業関係

　エ　施設整備事業関係

　オ　塚原歴史民俗資料館関係

(4)SNS等を活用した情報発信について

　ア　広報活動(SNS等)

5 その他

6　閉会

※会終了後、ご希望の委員には企画展「　震災をふりかえる－大地とモノが語る熊本地震－」をご案内します。

資料１

議事

（1）令和元年度（2019 年度）熊本博物館運営点検評価報告について

〈令和元年度運営分〉
熊本博物館運営点検評価報告

熊　本　博　物　館

目　次

Ⅰ．点検評価の概要
（１）運営の点検と評価の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（２）平成 31 年度（令和元年度）の運営の点検と評価について・・・・・ 1

Ⅱ．運営状況の総括
（１）主な学芸活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（２）主な施設の運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅲ．熊本博物館の施策体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅳ．施策についての点検・評価
1　学芸活動
（１）調査・研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（２）展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（３）教育・普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（４）収集・保存活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
（５）情報収集・発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

2　博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然火災への対策

（１）施設利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
（２）来館者へのサービス、安全管理・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（３）火災、地震等の自然災害対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

3　市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

（１）博物館活動への市民参画・協働・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
（２）熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携・・・・・・・・ 25

Ⅰ．点検評価の概要

（１）運営の点検と評価の趣旨

熊本博物館は昭和 27 年(1952 年)に熊本城内(本丸)に開館し、花畑町の勧業館時代を経て、昭和 53 年(1978 年)に現在の熊本城三の丸地区に、建築家・黒川紀章氏の設計により新築・移転しました。その後、建築からおよそ 40 年が経過し、施設の老朽化や社会の変化・進展に伴う展示技術の向上等に対応する必要が生じてきました。そこで、新たに施設機能と展示環境を見直すことで魅力ある総合博物館、政令指定都市にふさわしい熊本地域における中核博物館として多くの人々に親しまれる社会教育・生涯学習施設を目指し、平成 24 年度からリニューアルを進めてきました。

このような経緯の中、平成 25 年(2013 年)7 月から一部プラネタリウム等の投映は継続しつつ常設展示施設は閉館し、平成 27 年(2015 年)7 月から改修工事を進め、平成 30 年(2018 年)12 月 1 日、5 年 5 カ月にわたる改修工事を経てリニューアルオープンしました。

リニューアルオープンに際しましては、熊本博物館の 4 つの理念である「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」を踏まえ、これからの新たな博物館として、運営や活動の充実と向上を図っていく必要があります。

そこで、熊本博物館では『熊本博物館リニューアル後の運営方針(平成 30 年 11 月 12 日)』を策定し、この中の 5 章「運営の検証と評価」に基づき、「2　学芸活動」、「3　博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理、火災・自然災害への対策」、及び「4　市民参画・協働と他の博物館等との連携強化」について熊本博物館協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求めるものです。

（２）平成 31 年度（令和元年度）の運営の点検と評価について

平成 31 年度（令和元年度）は、リニューアルオープン以降、最初の通年・通常の運営年度として、年間計画に基づいた各種の事業を実施してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の発生を受け、令和 2 年 2 月 29 日から臨時休館の措置を取ることとなり、その後に計画をしていたイベントや講座・教室も軒並み中止または延期しました。

そのようなことから、本来であれば、平成 31 年度（令和元年度）の実績を基に検証と評価を行い、今後の事業展開の見直しと改善を図る予定でしたが、今もって、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であり、様々な感染防止対策を講じながらの運営となっています。

つきましては、今回は平成 31 年度（令和元年度）の実績を基に、今後、熊本博物館として、どのように新型コロナウイルス感染症と共存（with コロナ）していくかという視点を加えて、点検と評価を行うこととしました。

運営の点検期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日（2 月 29 日より臨時休館）

Ⅱ． 運営状況の概要

以下、主な学芸活動、施設の運営状況について記します。

（１）主な学芸活動

企画展・特別展では、博物館の近隣館である熊本県立美術館との統一したテーマによる連携展として、企画展「きらめく！大名道具－細川家の「華」と「武」の世界－」を開催し、熊本城域の施設と連携した取組を行いました。また、民間事業者と実行委員会形式で行った特別企画展「世界の昆虫」や、熊本博物館が主体となって実施した特別企画展「追憶の熊本－画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶－」などを通して、熊本の歴史と文化や自然の魅力を伝えました。

教育・普及活動では、多岐にわたる「学校教育支援事業（体系）」の中から、主にゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）や館内学習プログラム（お迎え事業）について、校長会や教職員向け研修講座で紹介を行い、一層の活用促進に努めました。

子ども科学・ものづくり教室は、新設の実験・工作室や講堂を主会場として、科学実験・科学工作を中心に、理工以外の関連分野の内容についても複数回実施しました。

情報発信については、収蔵品データベースの情報更新や、新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴う博物館の休館や小中学校の一斉休校といった状況下において、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットにて発信しました。また、展示会や講演会・催しなどについても、当館ホームページ、市ホームページやツイッター、市政だより等を活用して情報提供を行いました。

このほか、全館挙げての GW イベントや誕生月間イベントの新規開催、各種展示会や常設展示物とも連動させた講座・ミュージアムトークなどを行い、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫しました。

（２）主な施設の運営状況

受付窓口では、入場券販売機の案内及び減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導に努めました。また、開催されている展覧会や催しイベントなどの案内、団体受付も行い、来館者へのサービス向上に努めました。また、三の丸地区における中核施設として、「熊本城」「熊本城ミュージアムわくわく座」「博物館」の 3 館共通券の販売や施設紹介を行うなど、観光案内機能を拡充しました。

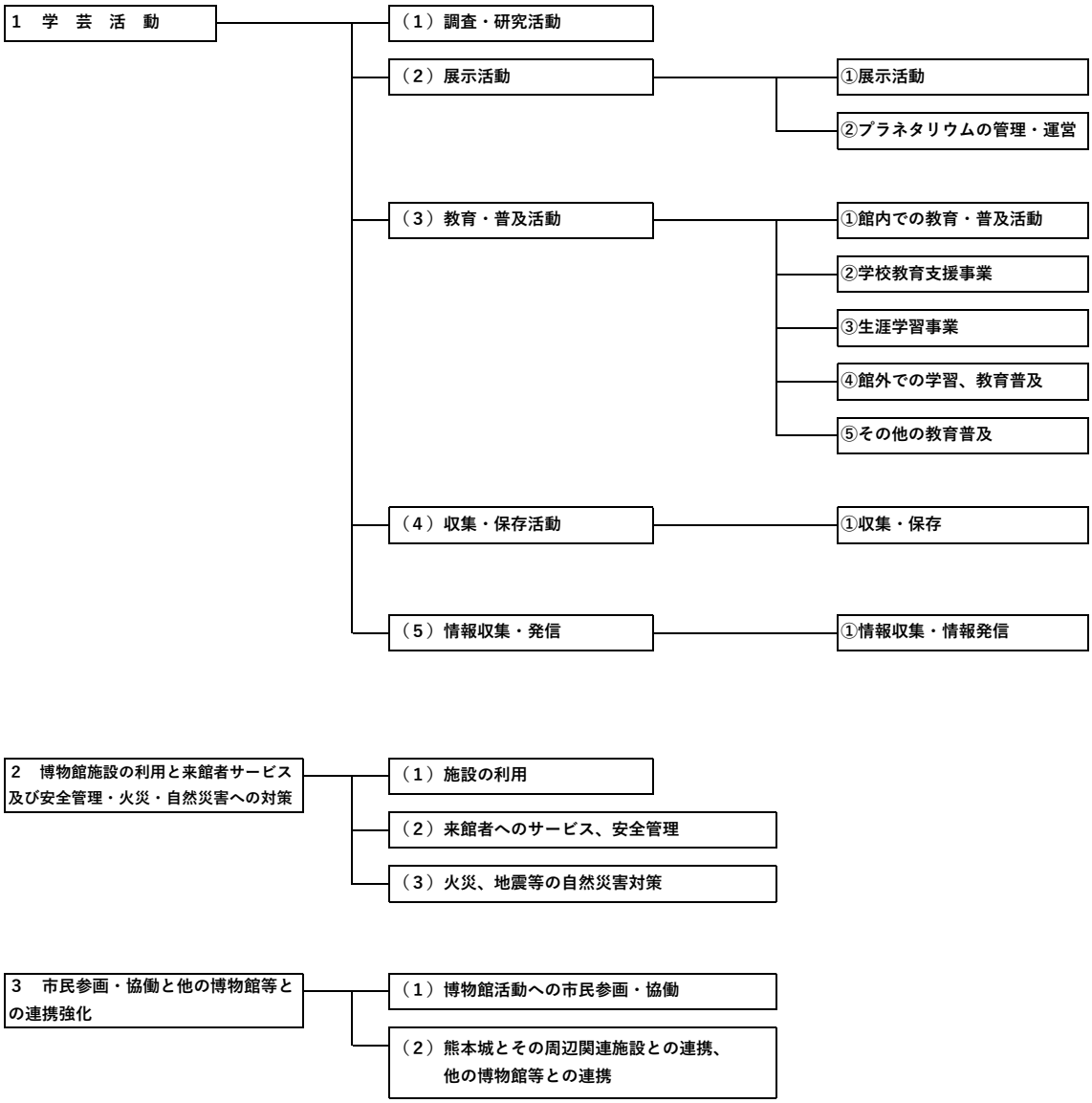
災害対策として、消防訓練は年度内に２回、計画的に実施しました。また、施設の安全管理に係る屋根の経年劣化等が原因と考えられる雨漏りにつきましては、先のリニューアル工事の施工部分とは異なり、新たな改修工事が必要となったものです。また、全庁的な施設改修計画「個別長寿命化計画」の対象として、後年度に予定をしていた外壁改修についても、今回の工事に合わせてスケジュールを前倒して実施することとし、令和２年 8 月から令和３年７月までの工期で実施しています。

○熊本博物館入場者数及びプラネタリウム観覧者数（2019 年度）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
博物館入場者数	5,855人	7,597人	7,289人	10,277人	21,032人	4,138人	8,358人	6,582人	4,544人	5,790人	5,478人	－	86,940人
うち プラネタリウム観覧者数	3,820人	4,417人	5,200人	6,072人	9,189人	2,282人	3,679人	2,703人	2,497人	3,643人	2,665人	－	46,167人

※令和２年２月 29 日から令和２年３月 31 日までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館。（令和２年５月 21 日から再開）

Ⅲ　熊本博物館の施策体系図



Ⅳ.　施策についての点検報告

1	学芸活動
（1）	調査・研究活動
①	調査・研究活動

1　事業の目的・実績

目的	熊本博物館は、「考古」「歴史」「民俗」「美術工芸」「地質」「動物」「植物」「天文」「理工」「保存科学」という分野で構成する総合博物館であり、これらの各分野における調査・研究を進め、博物館の活動の質を高めていく。
実績	【調査研究における論文等を本館の館報（2019年度報告）に掲載】 ⑴熊本県産のハロイサイト団塊について 　企画展「自然のおいしい味わい方」に展示する標本について、熊本大学の協力を得て、分析・鉱物種の同定を行った。 　（学芸員　南部靖幸※）　※南部含め3人の共著 ⑵熊本博物館所蔵の西南戦争関連遺物 　博物館で収蔵している資料のうち、熊本城から出土した西南戦争関連の銃砲弾類について紹介した。 　（学芸員　中原幹彦） ⑶【資料解題】松田家文書について 　令和元年9月に寄贈いただいた松田家文書（総数41点）について紹介した。 　（学芸員　木山貴満） ⑷その他、各分野の調査・研究方針は、同館報P.64～65に掲載

2　工夫と成果・課題等　（※）上記(1)の調査・研究に関して（例示）

取組において工夫した点	・熊本大学と共同で調査を行い、天草地域から産するハロイサイト（粘土鉱物）の形態・組成・産状をまとめ、成因を議論した。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・展示会での解説情報に役立ったのみならず、熊本地域の火山性堆積物に関する新たな知見が得られた。 ・調査研究活動に必要な機器（備品）の整備が遅れている。
課題に対する今後の対応	**・調査研究活動に必要な機器（備品）の調達については、計画的に予算を計上していく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
（２）	展示活動
①	企画展、特別展等の開催

1　事業の目的・実績

目的	常設展示や特別展、企画展等の開催を通し、市民や国内外からの観光客に対して魅力的な展覧・鑑賞の機会を提供する。
実績	【特別展・企画展・共催展の開催】 ※第1回協議会にて概略説明 (1)特別企画展「世界の昆虫」 期間　7月20日(土)～ 8月25日(日) 入場者数17,126人 (2)特別企画展　「追憶の熊本－画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶－」 期間　10月 5日(土)～11月24日(日) 入場者数　1,366人 (3)企画展「きらめく！大名道具－細川家の「華」と「武」の世界－」 （熊本県立美術館連携展） 期間　4月20日(土)～ 7月 7日(日) 入場者数　19,486人（開催期間中の来館者数） (4)共催展　「地質の日」企画　身近に知る「くまもとの大地」 期間　5月12日(日)～ 6月 2日(日) 入場者数　3,463人（同上） (5)企画展　自然のおいしい味わい方 期間　６月８日(土)～ ７月 ７日(日) 入場者数　8,039人（同上） (6)共催展　国立科学博物館・コラボミュージアムinくまもと 生命のれきし　－君につながるものがたり－ 期間　12月 3日(火)～ 1月26日(日) 入場者数　9,593人（同上） (7)企画展　「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一 －熊本で見つけたモノ－ 期間　2月 8日(土)～ 2月28日(予定：3月22日（日）)入場者数　3,435人（同上） (8)第53回肥後しゃくやく展 期日　5月 4日(土・祝)・5日(日・祝) 会場：塚原歴史民俗資料館 ・肥後芍薬の切り花を展示した (9)第59回肥後朝顔秋の展示会（共催展）の開催 期日　9月 6日(金)～ 8日(日)　場所：熊本市動植物園 ・肥後朝顔涼花会の会員及び熊本城総合事務所が出品。写真、解説パネル等を設置し、会場では会員による栽培法・鑑賞法等の解説が行われた。 (10)企画展「暮らしを支えた民藝展」　場所：熊本国際民芸館 主催　くまもと工芸会館　共催　熊本国際民芸館 期間　8月 9日(金)～ 8月25日(日) 入場者数　933名 (11)その他「蔵出し考古展2019」ほか ※(1)～(7)の会場は熊本博物館

２　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・市政だよりや当館HPだけでなく、新聞、ラジオ、タウン情報誌等、可能な限りの広報活動を展開し、周知・集客に努めた。 ・夏の特別展では、マスメディアとの協働による初めての実行委員会形式で開催した。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・夏の特別展のテレビに等による報道は、実行委員会を組織したテレビ局による1社が中心で、他のマスメディアによる取材や宣伝が少なかったように思える。実行委員会形式による広報の方法について再考する必要がある。
課題に対する今後の対応	**・実行委員会形式における広報について、実行委員会を組織する相手方以外の他のマスメディアへも後援等の協力依頼を行い、様々な形で広報いただけるようにはたらきかける。** **・総合博物館としてバラエティ豊かな各種展示会を開催するとともに、常設展示室においても定期的・部分的な展示替えを行い、多くの方々が何度も訪れたくなる博物館を目指す。** **・各種展示会の開催や展示替えに関する情報については、ＨＰ・市政だより・博物館ニュースはもとより、ＳＮＳを介した様々な広報媒体を活用して周知を図り、来館者の増加につなげていく。**

Ⅳ.　施策についての点検報告

1	学芸活動
（２）	展示活動
②	プラネタリウムの管理・運営

1　事業の目的・実績

目的	県内最大のプラネタリウム施設を活用し、学習投映、一般投映等を通して、天文学についての情報発信と理解促進に努める。また、管理にあたっては解説技術の向上、内容の充実を図る。
実績	(1)一般投映及び幼児向けファミリーアワー投映と星空解説 【一般投映】 ①「火星～その先の宇宙　スペースエクスプロア」 投映期間　4月1日～ 4月14日(日)（2018年12月1日(土)～投映継続） ②「賢治の星座早見～星のものがたり～」 投映期間　4月18日(木) ～　6月16日(日) ③「DARK UNIVERSE」 投映期間　6月18日(木) ～　9月8日(日) ④「星屑の鉱石ラジオ」 投映期間　9月12日(木) ～ 12月1日(日) ⑤「地球ミュージアム」 投映期間　12月3日(火)～ 2020年2月21日(金) 【幼児・家族向けファミリーアワー】 幼児向け「キラキラ森のなかまたち」 (2)幼稚園・保育園・小中学校向け学習投映・解説（44回） (3)字幕付きプラネタリウム 聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。 実施日　6月8日(土)・8月12日(月・振)・11月16日(土) ・2020年1月19日(日)　参加者　531人特別投映 (4)特別投映 ①「賢治の星のものがたり～双子の星～」 プラネタリウムを用いた星空の投映などの演出と共に、宮沢賢治の代表作の 一つである「双子の星」の読み聞かせを行った。 実施日　6月9日(日)　参加者　170名 語り手　ストーリーテリング教室「ことのは」講師　志岐　有子氏 ②「熟睡プラ寝たリウム」 全国一斉熟睡プラ寝たリウムの開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラムの投映を行った。 実施日　11月23日(土・祝)　参加者　140名 ③「ポーリーさんのホーリーナイトプラネタリウム」 熊本市内での天体観察会が大人気の星のコンシェルジュ®のポーリーさんを講師にお招きし、クリスマスの頃に見える星空の解説を行った。 実施日　12月1日(日)　参加者　100名 講師　南阿蘇ルナ天文台　ポーリーさん

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・各種投映については、熊本市教育委員会指導課主催の「校長・園長会（年間5～6回開催）」や、宿泊教室担当者説明会等にも出向いて説明を行い、協力依頼・活用促進を図った。 ・広報活動も各種媒体を通じて積極的に行った。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・天文分野に関する様々な情報を、幅広い世代の観覧者に対して継続的に更なる提供を行う必要がある。
課題に対する今後の対応	**・各種投映だけでなく、天文講演会や特別投映の実施、コズミックカレッジの開催など幅広い世代の観覧者に対し、天文分野に関する様々な情報提供を、プラネタリウムを活用した更なる教育・普及活動の充実に努めていく。** **・新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝える魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。** **・博学連携の一環として、プラネタリウムを活用した教職員向け研修講座等も行い、更なる利用促進につなぐ。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
（３）	教育・普及活動
①	教育・普及活動（館内での講座・講演会等）

1　事業の目的・実績

目的	各分野の調査・研究や展示活動とも連動しながら、その成果を講座・教室等で公開することにより生涯学習・学校教育・社会教育の充実に寄与する。
実績	(1)ミュージアムトーク（全23回：詳細は、P.56～57） 歴史・美術工芸・動物・植物・地質分野にて実施 (2)天文講演会（全3回：285人） ①7月7日「宇宙の不思議：ブラックホール」 熊本大学大学院理学研究科　小出　眞路 氏 ②10月26日「似ている？似ていない？「あかつき」金星の素顔に接近中」 JAXA宇宙科学研究所　佐藤　毅彦 氏 ③12月22日「ホットな宇宙を探る」 愛媛大学宇宙進化研究センター　粟木　久光 氏 (3)GWイベント、2月「くまはく誕生月間」でのイベント実施 学芸班による各種イベント・講座開催と総務企画班による広報活動 (4)子ども科学・ものづくり教室（全28回：2067人）前年度26回：1432人 科学実験・科学工作を中心に、他分野関連の内容も複数回実施 熊本高等専門学校、電波適正利用推進員協議会等との連携も再開 (5)通年講座　考古・民俗・地質・動物・植物分野にて実施

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・全館挙げてのGWイベントや誕生月間イベントを新規開催した。 ・各種展示会や常設展示物と連動させ、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫した。 ・事前申し込み不要で参加できるミュージアムトークや当日受付で参加できる各種イベント、年度登録制で１年間学ぶことのできる通年講座のように、老若男女、ライトユーザーからヘビーユーザーまで幅広い層の興味・関心に対して、それぞれ効果的な参加形態を設定して普及活動を行った。 ・天文分野・理工分野においては、ノーベル物理学賞・化学賞受賞の研究対象など、タイムリーな情報提供に努めた。 ・子ども科学教室では当館の改修期間中に中断していた協働イベントを一部再開し、内容の充実を図った。

取組による成果と令和元年度に残った課題	・実施した事業はいずれも大変好評で、各分野の展示活動や調査・研究活動の一端に触れていただくことができたが、今後も魅力的で充実した内容の講座・講演会・教室等の開催ができるよう、事前の情報収集及び連絡調整や準備のための時間・協力者の確保等が不可欠となる。
課題に対する今後の対応	**・半期から数年スパンの（中・長期に亘る）学芸活動全般を見通し、早めの準備・計画・実践を心掛けると共に、講座・教室等に関連する情報収集に努める。** **・子ども科学・ものづくり教室においては、低年齢化する参加者への対応やウィズコロナの時代に適応した教室運営を行いながら、同様の経験を有する諸機関・団体（高専・大学・NPO等）との連携も強化していく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
（3）	教育・普及活動
②	学校教育支援事業（博学連携事業）

1　事業の目的・実績

目的	教材・学習材として価値のある資料及び、学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援に資する（主に、社会科・理科）。
実績	(1)ゲストティーチャー派遣授業【お出かけ事業】（9校：22単位時間） 派遣授業プログラム集をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った（一昨年度は5校：15単位時間）。 (2)館内学習支援活動【お迎え事業】（16校：24プログラム） 館内学習プログラム集をもとに、要請に応じて館内学習の支援を行った（一作年度は4校：6プログラム）。 (3)小学校理科実験・事故防止講習会支援（全小学校：92校対象） 熊本市教育委員会指導課主催の講習会に実技講師として参加し、安全かつ適切な実験方法・実験実技に関する指導・助言を行った（3日間開催）。 (4)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」（2日間：延べ23人） (5)学校（学年・学級）PTA活動・公民館等開催講座支援（9団体：1789人） 「親子で楽しむ科学工作」講師

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・学校教育支援事業に関連する事業体系一覧（A３：1枚）を作成し、各事業の概要について全小中学校への周知を図った。特に、支援事業の両輪となる「お出かけ事業」「お迎え事業」のプログラムに関しては、校長会や教職員向けの研修講座でも紹介するなど、一層の活用促進を図った。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・リニューアル効果による需要、シャトルバス事業等の新規取組によって、当該プログラムの活用数は「お出かけ・お迎え事業」ともに一昨年度実績よりも増加した。 ・プログラム利用校の増加に伴い、実施日時・日程調整等が必要であり、採択教科書に準じたプログラム集改定作業も進めていかなければならない。
課題に対する今後の対応	**・派遣授業は年間10校（25時間）程度の要請が継続的に得られるよう、プログラムの有用性を各種機会を捉えて周知していく。** **・ZOOM等、ICTを活用した新たな展開も試行的に開始する。** **・館内学習についてもさらなる利用促進を目指し、ウィズコロナの時代に適応した運営の工夫を図る（少人数グループ対応の展示解説等）。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
（3）	教育・普及活動
③	生涯学習事業（博社連携事業を含む）

1　事業の目的・実績

目的	他の社会教育施設とも連携を図りながら、各種の学芸活動の成果を幅広い世代に還元し、生涯学習への興味・関心と参加意欲の向上に資する。
実績	(1)公民館等の講座支援 　託麻公民館、南部公民館、森都心プラザ図書館では科学工作や実験ショー、北部公民館西里分館では水生生物に関する講座の講師を務めた。 (2)自然観察会の実施 　わくわくえづっこ塾、熊本野生生物研究会等の依頼により坪井川・江津湖周辺の生きもの観察、江津湖公園広木地区では春の七草観察会などの講師を務めた。 (3)天体（火星・月・星座等の）観測会 　水前寺江津湖公園、立田山野外保育センターの依頼で講師を務めた。 (4)その他　5件：132名

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・館内業務を調整しながら、可能な限り協力・支援ができるよう努めた。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・以前から連携していた社会教育施設だけでなく、分野によっては新たな団体とのつながりもできてきた。 ・今後、各分野ごとに、内容的・回数的にどの程度の連携事業が可能なのか、通年業務を経て判断していく必要がある。
課題に対する今後の対応	**・館内での業務量、それらに対応するマンパワーの現状を踏まえると、職員が出向いて行う事業の拡充には限界がある。今後、より効率的な連携の方策を関係機関と協議・検討していく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
（3）	教育・普及活動
④	館外での学習、教育普及（HP等での情報提供）

1　事業の目的・実績

目的	当館HP等を活用し、来館しなくても熊本の歴史や自然について学ぶことができるよう収蔵品データベース等の充実を図り、館外における学習や研究活動、館外講座等での利用促進に寄与する。
実績	(1)収蔵品データベースの情報更新・ホームページ公開 　地質、動物、植物、理工、考古、歴史、民俗：約14万点 　（天文、美術工芸も含む） (2)刊行物の公開 　館報（調査・研究記事含む）、博物館ニュースレターの電子公開 (3)ホームページコンテンツ「気軽にやってみよう！博物館流 自然観察・科学工作のススメ」公開 　新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴う博物館の休館や小中学校の一斉休校といった状況下において、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットにて発信した。

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・前年度後半から本格運用を始めた新収蔵品データベースについて、各学芸員の運用に合わせて随時カスタマイズを行い、効率化を図った。 ・コロナ禍を機に公開を開始したホームページコンテンツは、北海道博物館の呼びかけに応じ「おうちミュージアム」に参加したことで、効果的な周知をすることができた。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・ホームページコンテンツ「気軽にやってみよう！博物館流 自然観察…のススメ」では2020年3月2日～3月31日の約１ヶ月間に13のプログラムを公開し、その後拡充した他の「おうちミュージアム」事業と共に休館中の教育普及活動の柱となった。 ・身近な自然をテーマに開始したため、当初は自然分野主体であったが、SNSやYouTubeを活用するなど、多様で総合的な活動となるよう工夫した。今後もこの活動を継続していくための体制づくりが必要である。
課題に対する今後の対応	**・現在、緊急事態宣言前と同等の日常業務を行いながら、それに加えて、新たにwebコンテンツの拡充やリモートによる教育普及活動が求められている。限られたマンパワーと予算の中で、withコロナ・afterコロナへの対応を念頭に、事業の選択と集中を図っていく。**

Ⅳ.　施策についての点検報告

1	学芸活動
（3）	教育・普及活動
⑤	その他の教育・普及活動

1　事業の目的・実績

目的	当館の施設機能や学芸員等の専門性を活かし、博物館実習生の受け入れをはじめ教職員を対象とした研修会の実施、その他、職場体験学習の場として中高生等の受け入れにも応じ、求められる資質・能力の向上に寄与する。
実績	(1)博物館実習生受入れ 　HPにて「2019年度：博物館実習生の受け入れ」を周知し、応募のあった全14人に対して「受け入れ決定」を通知した。 　実習期間：令和元年（2019年）8月27日（火）～9月1日（日）：6日間 (2)高校生対象「インターンシップ職場実習」（全：7人を受け入れ） (3)教職員対象「社会体験研修」（全：2人を受け入れ） (4)（再掲）小学校理科実験・事故防止講習会支援（全小学校：92校対象） (5)（再掲）教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」 　（夏季休業中：2日間　延べ23人）

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・担当者が中心となって受け入れ希望者（学生の場合は学校の担当教師とも）及び館内職員との連絡調整に努めた。 ・総合博物館の利点を生かし、多種多様な業務体験ができるような計画を立て、有意義な実習が行えるよう配慮した。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・リニューアルオープン以降、当館における久々の実習受け入れ・教職員向け研修講座の開設となったが、これまでのノウハウを生かして事業を再開することができた。 ・今後、希望者が増えた場合や館内繁忙期と重なった場合には十分な対応ができなかったり、希望する体験が提供できなかったりすることも考えられる。
課題に対する今後の対応	**・博物館実習や教職員研修講座については、早期に実施要項を示し（定員や受け入れ基準等）、時間的に余裕をもって希望者を募るようにする。** **中学、高校生のインターンシップ受け入れに関しても、学校側に対し、できるだけ年度当初の早い段階で希望日や人数を確定して相談するよう働きかけていく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(4)	収集・保存活動
①	収集・保存

1　事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要不可欠な資料等の収集を行うとともに、収蔵保存管理、収蔵品の補修等実施し、博物館活動の充実と収蔵品の保存管理に努める。また、収蔵品のデータベース化を進め、一般公開も含め広く収蔵資料の活用を図る。
実績	(1)資料の収集・保存 ・収蔵実績、利用状況等（館報2019年度報告、P.66～69に記載） (2)収蔵品の収蔵管理 ・展示室・収蔵庫環境管理の実施 ・総合的有害生物管理（IPM）の実施 (3)資料修復関係（同報告、P.70に記載） ・歴史・美術工芸分野 収蔵刀剣類の手入れ（年4回）・刀剣類3振について部分的なさび取り補修 刀剣類1振について、研磨及び拵の修復 ・民俗分野 生人形４点の修復　・蚕の模型製作 八雲ゆかりの地蔵堂のエイジング塗装

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・資料収集については、将来的に展示可能なもの、学術的な価値の高いものを中心に収集を行った。 ・収蔵管理については、温湿度調査やトラップの害虫計測、清掃など 日常的なIPMに努め、各展示室、各収蔵庫の現状把握を行っている。 ・展示室と収蔵庫に除湿器を設置し、急激な湿度上昇を抑制している。 ・展示室には加湿機能付きの空気清浄機を設置し、コロナ対策とともに湿度低下の場面でも対応できるようにしている。 ・保存修理事業については、優先順位を決め、計画的な修復を進めている。

取組による成果と令和元年度に残った課題	・限られたスペースと予算の中で、資料の収集・管理・修復等に取り組むことができた。 ・日々の館内環境調査で気をつけねばならない箇所や時期などの問題点が発見できたが、職員全員への周知や年間を通しての計画的な実践が不十分であった。 ・導入した除湿器により急激な環境変化を抑制でき、カビの発生条件となる環境を回避することができたが、水捨て業務が必要となり、また電力使用量の増加など運用面での検討が必要である。
課題に対する今後の対応	**・年間を通して、展示室や収蔵庫の清掃など、「被害の未然防止」に向けたIPMの計画を職員に周知し実践する。** **・収蔵庫における除湿器の効率的かつ継続稼働を行うために、排水システムの改善と稼働時間や運営方法について職員間で共通理解を図り、実践化に取り組む。**

Ⅳ.　施策についての点検報告

1	学芸活動
(5)	情報収集・発信
①	情報収集・情報発信

1　事業の目的・実績

目的	熊本博物館における展示資料や展示会、講座・イベント情報など、様々な媒体を活用し、広く県内外へ情報発信するとともに他館に関する情報収集も行い博物館活動に活かしていく。
実績	(1)「熊本博物館ニュース」毎月発行し、展示会や講座、教室などの案内情報等を、小中学校や市関係施設等に配布するとともに館内でも配布を行い、月毎の情報発信を行った。 (2)「くまはくNEWS LETTER」を年2回発行。展示会・講座・イベント等の開催報告や収蔵資料などの紹介を通して、博物館の多面的な魅力を発信した。 (3)熊本博物館ホームページ、市ホームページやフェイスブック、市政だより等を活用し、情報提供を行った。

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・イベント情報の提供が中心となる「博物館ニュース」に加え、新たに発行を開始した「くまはくNEWS LETTER」で、イベントの実施報告や博物館活動の紹介、資料紹介・解説などを行い、魅力ある情報の発信に努めた。 ・更なるＳＮＳの活用を行うため、館独自のサイトの開設の検討を行った。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・博物館での展示会・教室・講演会などの催しやイベントなどについて、あらゆる媒体を活用しながら県内外への周知を図っていく必要がある。 ・ＳＮＳの活用では、即応性や発信力の強い熊本博物館の独自による公式サイトの早急な開設が必要である。
課題に対する今後の対応	**・当館独自の広報活動や市政だよりによる周知のほか、報道機関等や生活情報誌への情報提供を行うなど、さらに積極的な広報に努めていく。** **・熊本城周辺施設との連携や熊本国際コンベンション協会等との共同イベントの開催、博物館単体ではなく共同での催しも工夫して企画するなど、様々な方法で博物館の魅力を県内外に発信していく。** **・SNSについては、Youtube、Twitter、Facebook、Instagramなど、インターネットを活用した広報展開を拡充していく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
（1）	施設利用

1　事業の目的・実績

目的	来館者の安全確保に努め、誰もが安心して気軽に博物館を訪れたり、活用したりすることができるようにするとともに、公開承認施設を目指し、博物館施設管理の徹底を図る。
実績	(1)特別展示室の利用 ・「公開承認施設」を目指し、当館管理のもとで特別展示室１・２・３、常設展示室、収蔵庫等の環境調査等を行いながら展示環境の整備を行った。令和元年度は、特別展２回、企画展４回、共催展１回を特別展示室で実施し、保存科学担当の学芸員を中心に年間を通して展示環境の変化に注意を払った。 (2)展示室、講堂、実験・工作室の利用 ・講堂及び実験・工作室においては、博物館主催・共催、また学芸員等が参画する講演会、講座、研修会等に使用した。また小中学生を対象とした館内学習プログラムをはじめ、教職員を対象とした研究会・研修講座等でも使用した。 ※詳細は、館報（2019年度）に記載

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・常設展示室や特別展示室での来館者の動線や展示環境の変化に注意を払い、適切な環境整備に取り組んだ。 ・講堂及び実験・工作室の使用に際しては、講演会やイベント、講座ごとに適切な収容定員を設け、座席の配置、案内など工夫した。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・館内展示環境の変動状況などを年間通してモニタリングし、館運営のための基礎情報とした。また、講堂、実験・工作室の利用においては、催しやイベント、教室ごとの内容に合わせた適切な人員や安全な動線づくりなどに努めた。 ・十分な感染症対策により、来館者の安心・安全を確保する必要がある。
課題に対する今後の対応	**・令和元年度は年間通して運営する初めての年度であり、実際の来館者の動きや展示環境の変化に注視して運用を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症により2月末日から臨時休館することとなり、今後の館運営については感染症対策に一層気を配る必要がある。** **・今後も適切な感染症対策を講じたうえで、各展示室等の適切な環境整備や管理、施設の安全かつ適切な運用を図っていく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
（2）	来館者へのサービス、安全管理

1　事業の目的・実績

目的	安全で誰もが安心して気持ち良く訪れることができる博物館づくりに取り組む。
実績	(1)エントランスの活用 　エントランスには休憩用ソファーやイスを配置するとともにミュージアムショップを設置し、来館者のサービスの向上に努めた。また、来館者が飲料補給できるようにエントランス区域のみ飲料可として（館内は原則的に飲食不可）、ミュージアムショップと協力しながら飲料水の提供やエリアの周知徹底を図った。 (2)入場券販売方法、個人での来館、団体での来館への対応 　受付窓口では、入場券販売機の案内及び減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導に努めた。また、開催されている展覧会や催しイベントなどの案内、団体受付も行い、来館者へのサービス向上に努めている。 　また、三の丸地区の中核拠点として、熊本城・熊本城ミュージアムわくわく座・博物館の3館共通券の販売や施設案内等を行い、観光案内機能を拡充した。 (3)身体障がい者、高齢者の方等への対応 　南側玄関は団体客入場口として運用するとともに、これまで同様に身体障がい者用駐車場も設置し、入場時の利便性を確保した。 　身体障がい者の方や高齢者の方々が、いつでも利用できるよう車いす（3台）を配備している。また、ベビーカー（4台）も配備し、来館者サービスの向上を図った。 (4) 来館者の誘導、安全管理 　開館日には警備員1名を常駐させ、来館者の安全管理・安全確保に努めるとともに、不審者の侵入監視、閉館後の施錠確認等の徹底を図った。

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・窓口対応や館内案内についてはアウトソーシングにより対応の充実を図った。また、観光案内の拠点としての役割も果たすことができている。一般の来館者受付だけでなく団体受付も本窓口に一元化することで一括管理が可能となった。 ・ミュージアムショップを設置することで、エントランスの賑わいや博物館の魅力向上を図った。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・窓口案内業務をアウトソーシングすることで、外国の方々に対しても丁寧な対応が可能となった。 ・ミュージアムショップ設置は博物館の魅力を向上させるうえで効果があった。今後は当館のミュージアムショップとしてふさわしい、来館者の興味を引くグッズの充実・開発に向けて業者と協議を進めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	**・来館者案内や入場券の販売対応等に際しては、窓口以外の職員も含め、さらに親切で丁寧な対応に努めていく必要がある。** **・ミュージアムショップの商品については、業者と当館職員両者でアイディアを出し合い、来館者の求めるグッズづくりと販売促進を図っていく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
（３）	火災、地震等の自然災害対策

1　事業の目的・実績

目的	万一の火災や地震等の自然災害から来館者の安全を確保するとともに、展示資料及び収蔵資料の保護・保全を行う。
実績	(1)消防計画に沿った安全管理 ・平成30年度に見直した消防計画に沿って安全管理を実施。火災だけでなく地震対策についても記載している。また、当該計画では自衛消防隊を設置し、隊員それぞれが任務を分担し、緊急時には迅速な対応ができる体制づくりを行っている。 ・消防防訓練を年２回、AED研修を１回実施。中央消防署の助言により、初動対応マニュアル及び施設配置図を視認しやすい場所に設置した。 (2)屋根・外壁改修工事 ・屋根の経年劣化等が原因と考えられる雨漏りが発生。該当箇所は、リニューアル工事での施工部分ではなく新たな改修工事が必要となったもので、全庁的な施設改修計画「個別長寿命化計画」の対象となる外壁部分を合わせて改修に着手した。 （令和２年8月から令和３年７月までの工期にて実施予定）

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・消防計画においては火災だけでなく地震災害への対応も追加記載した。また、塚原歴史民俗資料館の消防計画においても同様の対応を行った。 ・職員全員で避難訓練及びAED研修を行い、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方について理解を深めた。 ・屋根改修工事に関しては、平成30年度の調査においても原因箇所の特定が困難であったため、屋根全面を金属板で覆う（横葺き）するカバー工法を採用。「コスト・工期・メンテナンス」を総合的に考慮した。

取組による成果と令和元年度に残った課題	・消防計画に基づいた定期的な避難訓練やAED研修を継続して実施し、有事の際はもとより常日頃から来館者の安全確保に万全を期すよう備えていく必要がある。 ・屋根改修工事については、屋根改修と外壁改修を合わせて実施することで足場が共有できる。また、２つの改修工事を同時に行うため、工期の短縮や経費の削減が見込まれる。 ・工事は営業（開館）を行いながらの実施となるため、来館者への周知や安全確保等、十分な配慮が必要である。
課題に対する今後の対応	**・来館者の安全確保や収蔵品保全のため、消防署等の指導・助言も受けながら様々なパターンの避難訓練等を定期的に実施していく。** **・改修工事に際しては開館しながらの工事となるため、騒音や来館者の安全確保を最優先に、施工業者とも慎重に協議を行いながら実施する。**

Ⅳ.　施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
（1）	博物館活動への市民参画・協働

1　事業の目的・実績

目的	博物館活動において市民参画・協働による活動を展開し、市民に親しまれる博物館活動を行い、市民と共に発展しくことを目指す。
実績	・各種講座や教室等を通して、参加者の専門的な知識や技能の向上を図るとともに、市民とのつながりを深めることができた。 ・博物館ボランティア等の参画・協働について、令和元年度においては実施していない。

2　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	各学芸班職員が、分野ごとに参加者の興味・関心を高めるようなテーマを設定し、内容も工夫して魅力ある各種講座及び教室等を実施している。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・各種講座の参加者の中でグループ化する動きもあり、将来的に参画・協働の対象となり得る「同好会」へ移行していく可能性がある。 ・各分野で一定の専門性をもち、継続して活躍いただけるよう、博物館としても人材育成やグループの活動支援に努めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	**・今後も魅力的な講座や教室等を開催し、市民とのつながりを一層深めるとともに、参加者の専門的な知識や技能の向上を図る。** **・館内ボランティアの組織づくりを念頭に、その自主的・自立的な市民参画・協働の姿を具現化できる体制の整備を進めていく。**

Ⅳ. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
（２）	熊本城とその周辺関連施設との連携、他の博物館との連携

1　事業の目的・実績

目的	熊本城周辺の文化施設及び観光部署が連携し、熊本城をはじめとした上質で伝統ある「熊本の歴史・文化の魅力や価値」を積極的に発信し、国内外の観光客や教育旅行の誘致・拡大につなぐ。また、県内外の博物館との連携やネットワークの構築を図り、質の高い博物館活動の実現を目指す。
実績	⑴熊本城及びその周辺関連施設との連携 熊本県伝統工芸館、熊本県立美術館、熊本博物館、熊本市現代美術館、熊本城総合事務所、熊本城ミュージアムわくわく座及び熊本市観光政策課、熊本県文化課による連携会議を平成29年度より実施している。平成31年度（令和元年度）は３回開催（新型コロナウイルス感染症の影響にて１回は書面開催）し、熊本城域における関連施設の一体的な連携強化を図っている。 ⑵熊本県内博物館、美術館、記念館等との連携 ・熊本県博物館連絡協議会の総会及び研修会に参加した。 ・熊本県立美術館と連携企画展を実施し、担当学芸員によるリレーミュージアムトークを行うなど、関係強化に努めた。 ・阿蘇火山博物館、天草市御所浦白亜紀資料館、御船町恐竜博物館、熊本県ネットワークセンター等と協働し、びぷれす広場にて連携イベントを実施した。 ⑶県外博物館、研究機関等との連携 ・日米自然科学博物館事業として、意見交換会を2回実施した。 ・夏休み期間中、阿蘇火山博物館、天草市御所浦白亜紀資料館、御船町恐竜博物館、熊本県ネットワークセンター、山鹿市立博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム、鹿児島県甑ミュージアム恐竜化石等準備室を巡るスタンプラリーを実施した。

２　工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・熊本城域の周辺関連施設や行政観光部署、観光協会等と展覧会・イベント等に関する情報交換を行い、連携した取組により広報に関する相乗効果をねらった。 ・それぞれの事業が一過性のものにならず、継続した事業として定着・発展するよう定期的に連絡を取り合っている。 ・隣接する県立美術館と連携し、同じ（統一）テーマを掲げた企画展を開催。
取組による成果と令和元年度に残った課題	・熊本城及びその周辺関連施設における連携事業として「共催事業、連携展示、連携広報」などを実施することができた。 ・今後も継続して相互に連携を図り、協働による取組を強化するためには、新型コロナウイルス感染症の影響で中断している連携会議等を復活させる必要がある。
課題に対する今後の対応	**・インターネットを介した遠隔会議や、メール等を活用した情報交換など、新しい生活様式に沿った会議や情報交換を継続的に実施する。** **・各施設や観光振興部署等との定期的な情報交換・情報の共有化を図り、より効果的な広報・イベント等を計画的に実施していく** **・県内外及び近隣博物館・資料館・美術館等の文化施設との連携事業を推進し、共同（協働）でそれぞれの館の魅力を高めていく。**

資料２

議事

（2）令和２年度事業報告（概要）について・・・Ｐ１

（3）令和３年度事業計画について

ア　展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

イ　博物館における教育・普及活動・・・・・・・・・Ｐ７

ウ　保存修復事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

エ　施設整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14

オ　塚原歴史民俗資料館関係・・・・・・・・・・・・P15

（4）SNS 等を活用した情報発信について

ア　広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17

議事

（2）令和2年度（2019年度）事業報告（概要）について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日より臨時休館を措置を取っていたが本市の「リスクレベル」が2に引き下げられたことに伴い5月21日に再開した。
しかしながら、ゴールデンウイーク期間中のイベントやその後の特別展の開催については、やむを得ず中止することとなった。また、講座・教室、企画展については、定員を縮小するなど、感染症を講じながらの運営となった。

１．通年講座・教室

【通年講座】

考古学専門講座
遺跡立地の理由を探る室内講座と現地巡り等

動物学講座
身近な生きものに関する室内講座と観察会等

植物学講座
身近な植物に関する室内講座と観察会等

地質学講座
化石や岩石、熊本の大地に関する室内講座

民俗学講座
身近な民俗と民俗学の歴史に関する室内講座

【ミュージアムトーク】

学芸員による展示解説。
展示会やイベント等に合わせて実施

【企画展関連講演会】

中止（後年度開催予定）

特別展「細川家御座船波奈之丸」関連講演会
・2020年10月10日（土）13時半～15時半
講演会
　講師：日本海事史学会会長　安達裕之氏（予定）
・2020年11月7日（土）13時半～15時半
講演会
　講師：株式会社修復技術システム
　　原田聡明氏（予定）

企画展「ひとのすがた・いのりのかたち」関連講演会
講演会「仏像の文化財修理について」
講師：公益財団法人　美術院国宝修理所
　　所長　陰山 修 氏
日時：2020年12月19日（土）13時半～15時
会場：プラネタリウム室

【子ども科学・ものづくり教室】

小中学生を主な対象として『科学実験や科学工作』などの直接体験の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術について学ぶ機会を提供。

【塚原歴史民俗資料館における教育・普及活動（講座・教室等）】

・考古学講座　・古文書講座
・学芸員と歩く野外博物館
・各種体験教室
　土器づくり・勾玉づくり・埴輪づくり・古代織づくり・編布づくり・藍染

令和２年度　入場者数推移　　２月末現在

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和2年度	0	803	3,866	4,294	5,117	3,660	4,935	6,380	2,785	1,441	3,464		36,745

コロナウイルス感染症拡大防止対策にて臨時休館（５月２１日から再開）

２．展示活動

2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別展示室1				②夏季ミニ企画展					④ひとのすがた、いのりのかたち		⑥ひな祭り	⑦震災
特別展示室2						③がまだすドーム巡回展						
特別展示室3		①深海生物							⑤発掘速報展			

①パネル巡回展示
潜水調査船がみた深海生物
5月21日(木)～6月21日(日)

有人潜水調査船「しんかい6500」や無人探査機「ハイパードルフィン」 などのカメラがとらえた、美しくも神秘的な深海生物の写真を中心に 展示しました。深海は、暗黒・高圧・低温といった過酷な環境ですが、 そのような環境に適応し、進化を遂げてきたさまざまな生きものたちが、数多く生息しています。潜水調査船が光をあてた深海の世界をお楽しみ頂けました。

②夏季ミニ企画展
ひらいて、見よう！いろんな巻物展、ミニ宮本常一展、くまはくおうちミュージアムのあゆみ、ＨＯＲＩＺＯＮパネル展（7月23日～8月30日）

コロナウイルス感染症拡大防止対策のため延期となった夏季特別展にかわり、ミニ企画展を実施。資料の大きさのため、通常はごく一部しか展示できない巻物資料を大きく開いて展示した「ひらいて、見よう！いろんな巻物展」、民俗学者・宮本常一の半生と、熊本での足跡を写真や著書等で紹介した「ミニ宮本常一展」、外出自粛期に開始した当館のwebコンテンツ発信の取り組みを紹介し、関連する対象物（魚の耳石や工作物など）を展示、プラネタリウムにて投映した宇宙の地平を追い求めた天文学者たちの物語を表現した番組「ＨＯＲＩＺＯＮ」のパネル展を紹介しました。

③がまだすドーム巡回展
「1991雲仙普賢岳噴火災害を振り返るIN熊本博物館」
（9月9日～10月11日）

雲仙岳災害記念館の巡回展。雲仙普賢岳噴火災害の状況、噴火活動、支援活動の過程を、実際に被災した資料や映像とともに紹介。当時を語る噴火や災害の写真を通して、火山の脅威や災害への心がまえ、市民をはじめとするボランティア活動、そして復興を果たしていった様子を振り返り、今後の防災を考える展示としました。

④企画展
重要文化財
《木造東陵永璵禅師倚像》修理記念
「ひとのすがた、いのりのかたち
―肖像彫刻の世界―」
12月5日(土)～1月24日(日)

《木造東陵永璵禅師倚像》（雲巌禅蔵）は元の出身で、日本に渡来した僧侶・東陵永璵（1285?-1365）の姿を表した像と伝わっています。本像の修理完了を記念して開催する本展では主に熊本県内に残る肖像彫刻をとおして、実在した（あるいは実在したとされる）人物の姿かたちを表すことに込められた人々の祈りのかたちを考えました。

木造東陵永璵禅師倚像

⑤熊本市遺跡発掘速報展
12月5日(土)～1月24日(日)

土器や石器が盛りだくさん！
熊本市内の最新の発掘成果を展示しました。

⑥企画展「**博物館でひな祭り**」
2月6日(土)～3月7日(日)

熊本博物館が集めてきたひな人形や舞踊人形を展示しました。天草土人形やオキアゲ人形などの、熊本ゆかりのものも飾り、博物館でひな祭り気分を味わって頂けました。

⑦企画展「震災を振り返る ―大地とモノが語る熊本地震―」
3月20日(土)～5月9日(日)

2021年の春には熊本地震発生から5年が経過します。本展では、“あの時”起きたこと、熊本地震発生直後からの当館の取り組み、地震の痕跡が残る資料や、地層に残された地震の履歴をご紹介し、各地で続く災害について改めて考えるきっかけにしたいと思います。

議事

（3）令和３年度事業計画について

ア　展示活動

（１）特別展

【事業名】　**特別展「銀河鉄道の夜　-KAGAYA　星空の世界展-」**

【目　的】　国内をはじめ、欧米・アジアの累計 100 館を超えるプラネタリウムで上映され、観客動員数 100 万人突破という金字塔を打ち立てたプラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」。その「銀河鉄道の夜」をテーマに、番組を手掛けた KAGAYA 氏のデジタルアート・星景写真を展示する。

【内　容】　①プラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」関連のデジタルアート
②KAGAYA 氏が撮影した星景写真
③KAGAYA 氏の講演会（プラネタリウム室）　※日程調整中
④会期中に合わせ、プラネタリウムにて「銀河鉄道の夜」を投映

【会　場】　特別展示室１・２・３

【期　間】　令和３年７月 17 日（土）～　令和３年９月５日（日）

（２）企画展・共催展

【事業名】　**企画展「震災をふりかえる ―大地とモノが語る熊本地震― 」**※前年度からの会期継続事業

【目　的】　熊本地震発生から 5 年、東日本大震災から 10 年の大きな節目にあたる 2021 年春に震災を振り返る展示を行い、各地で続く災害について改めて考える。

【内　容】　『熊本と自然災害』
・熊本の地を襲った数々の歴史的災害について、資料をもとにひも解く。
『被災文化財が語る熊本地震』
・熊本地震にて被災した文化財・救出された文化財を紹介する。
『大地が語る地震の記憶』
・様々な地点の断層地層剥取標本に記録されている地震の頻度を比較する。
（2 階階段周辺／多目的スペース）『東日本大震災に関連するパネル展示』

【会　場】　特別展示室１・２・３

【期　間】　令和３年３月 20 日（土）～令和３年５月９日（日）※前年度からの継続事業

【事業名】　**企画展「未来へつなぐ植物の記録―令和２年７月豪雨で被災した前原勘次郎の植物標本―」**

【目　的】　人吉城歴史館所蔵の被災した植物標本のレスキュー作業について紹介し、標本の重要性に対する理解を深め、地域の自然に対する興味・関心を高める。

【内　容】　標本の被害状況やレスキュー作業、修復作業の内容、方法等について紹介する。

【会　場】　特別展示室１・２・３

【期　間】　令和３年10月２日（土）～令和３年11月28日（日）　※日程調整中

【事業名】　**企画展「（仮）能の伝承　～中村家文書の世界～」**

【目　的】　中村家文書（熊本市）は、熊本藩士であり、金春流能楽の伝承者であった中村家に伝来した文書である。近世初期の諸大名が提出した起請文が残るなど、貴重な内容が記されている当該文書の展示を通じ、近世熊本における能楽の伝承を振り返る。

【内　容】　中村家の祖・中村政長は、慶長15年（1610）に金春流奥義を相伝。伝書取得者として大きな権威を誇ることとなった。

展示資料：伊達政宗書状、細川忠利起請文、小笠原忠真起請文ほか（中村家文書）中村靱負関係能面（八代市立博物館）、その他。

【会　場】　特別展示室１・２

【期　間】　令和４年２月上旬～3月末日　※日程調整中

【事業名】　**共催展「いきものフェアくまもと2021」**

【目　的】　生物多様性について楽しく学べる参加型・体験型のプログラムの実施を通して、私たちの暮らしが生物多様性に支えられていることや生物多様性を守ることの大切さを知り、市民自らが行動するきっかけを提供するもの。

【内　容】　生物多様性の日イベントとして熊本市動植物園にて開催

（熊本博物館・動植物園・環境総合センター・環境共生課）

【会　場】　熊本市動植物園

【期　間】　令和３年５月８日（土）、５月９日（日）　※日程調整中

【事業名】　**共催展「熊本市遺跡発掘速報展」**

【目　的】　最新の熊本市内の発掘調査成果の公開

【内　容】　文化財課との共催で、近年に発掘した遺跡の出土遺物や解説パネルの展示を行う。

【会　場】　特別展示室３

【期　間】　令和３年12月～令和４年１月頃　※日程調整中

（３）その他の展示会

【事業名】　**「肥後しゃくやく展」**

【目　的】　栽培者はわずか数名で、一般の方が鑑賞できる機会は少ないため、熊本の伝統園芸として広く知ってもらい、貴重な鑑賞の機会とする。

【内　容】　肥後しゃくやくの切り花を展示する。

【会　場】　塚原歴史民俗資料館

【期　間】　令和３年５月上旬　※日程調整中

【事業名】　**「肥後朝顔 秋の展示会」**

【目　的】　肥後六花の一つである肥後朝顔を一般の方々に鑑賞していただき、伝統園芸として広く伝え、普及・啓発を図る。

【内　容】　肥後朝顔涼花会が栽培した肥後朝顔を展示する。

【会　場】　水前寺成趣園　古今伝授の間

【期　間】　令和３年９月上旬　※日程調整中

【事業名】　**「（仮）蔵出し考古展 2021　熊本駅周辺の栄枯盛衰」**

【目　的】　熊本駅周辺では二本木遺跡等、幾多の調査で多くの成果が上がっており、出土資料や解説パネルを展示して古代からの移り変わりを紹介する。

【内　容】　「奈良・平安時代」のケースを中心に二本木遺跡出土品などを展示する。

【会　場】　特別展示室３

【期　間】　令和３年11月　※日程調整中

（４）プラネタリウム関係

【事業名】　**プラネタリウム投映**

【目　的】　星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。

【内　容】　①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、スタッフの

解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。

②幼稚園・保育園・こども園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。

③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年度内に4度開催）」等を実施する。

【期　間】　令和3年度（通年）

【事業名】　**天文講演会**

【目　的】　天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会を提供する。

【内　容】　天文・宇宙分野において第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただく。

【期　日】　令和3年度は10月・1月・3月の計3回開催予定　※日程調整中

【事業名】　**プラネタリウム特別投映**

【目　的】　プラネタリウム活用の一環として、通常のプラネタリウム投映とは異なる1回限りの特別なプログラムを投映する。

【内　容】　内容未定

【期　日】　令和3年度は年に4回実施　※日程調整中

【事業名】　**字幕付きプラネタリウム**

【目　的】　聴覚に障がいのある方も、そうでない方も一緒にプラネタリウムを楽しめるよう、字幕付きの投映を行う。

【内　容】　一般投映番組の字幕付き投映

【期　日】　令和3年度は4回実施　※日程調整中

イ　博物館における教育・普及活動

（１）　講座・講演会等

①　通年講座の開催

【事業名】　**動物学講座**

【目　的】　室内講座や野外観察を通して動物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高める。

【内　容】　令和 3 年度は 5 月～翌年 3 月まで奇数月に実施。全 6 回。小学 4 年生以上対象。室内学習や野外での観察会など。

【事業名】　**植物学講座**

【目　的】　室内解説や野外観察を通して植物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高める。

【内　容】　令和 3 年度は 4 月～12 月までの偶数月に実施。全 5 回。各回テーマを設定して行う。

【事業名】　**地質学講座**

【目　的】　化石・岩石・鉱物等、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発を図る。

【内　容】　令和 3 年度は 6 月～翌年 2 月までの偶数月に実施。各回テーマを設定し、室内学習を行う。

【事業名】　**考古学専門講座**

【目　的】　現代の生活と対比しながら、縄文時代を考える。

【内　容】　一般を対象として、室内講座と現地巡りを行う。

【日　時】　令和 3 年度は 5 月～翌年 3 月までの期間で 10 回程度実施。

【事業名】　**保存科学講座**

【目　的】　室内講座や解説を通して保存科学の概要を知ってもらい、文化財の保存に対する興味・関心を高める。

【内　容】　令和 3 年度は 6 月～3 までの偶数月実施。全 4 回。

②野外活動・研究関係

【事業名】　**化石観察会（2021 夏・2022 春）**

【目　的】　化石や熊本の大地に関する普及・啓発を図る。

【内　容】　小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行う。

【期　日】　夏休み・春休み期間中、もしくはその直前・直後の土日

③その他の講座、講演会等

【事業名】　**自由研究相談会**

【内　容】　動物・植物・岩石・化石・理科実験・科学工作・天文などのテーマを中心に、小中学生を対象とした夏休みの自由研究の進め方や標本の収集方法、調べ方、まとめ方などについての助言を行う。

【期　日】①（テーマ設定）夏休み第一週の土日

②（まとめ・標本同定）夏休み第5週の土日

※感染症の流行状況によっては予約制の個別面談で行う場合もある。

【事業名】　**熊本市遺跡発掘速報展　講演会**

【内　容】　一般市民を対象として、速報展の見どころを紹介する。

【期　日】　令和3年12月頃

≪5月大型連休中の催し予定≫

【催事名】　**「G・W！連休中は熊博へ」**

【目　的】　学芸員・研究員の専門性を活かし、GW期間中に多様なイベントを開催し、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

【内　容】　各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。

【対象者】　各事業により対象は異なる（幼児から一般市民向けまで様々）。

【期　間】　4月29日（木・祝）、5月1日（土）～5月5日（水）まで6日間の予定

《計画内容　以下を参照（一部）》

【事業名】　**小さな結晶を大きく育ててみよう！**

【内　容】　プラスチックケースの中にミョウバンの種結晶と飽和水溶液を入れ、美しい形をしたミョウバンの結晶づくりを体験する。

【対象者】　一般市民

【期　日】　令和3年4月29日（木・祝）※日程調整中

【事業名】　**博物館周辺生きものウォッチング**
【内　容】　博物館の周りを歩いて、いろいろな生きものを観察する。
【対象者】　一般
【期　日】　令和３年５月１日（土）　※日程調整中

【事業名】　**銅鏡のレプリカを作ろう！**
【内　容】　銅鏡の鋳型に低融点金属を流し込み、銅鏡の作成方法を学ぶ。
【対象者】　一般
【期　日】　令和３年５月　※日程調整中

【事業名】　**考古学はオモシロイ！！**
【内　容】　常設展示と屋外展示の解説を行う。
【対象者】　一般
【期　日】　令和３年５月（午前・午後の各１回開催）　※日程調整中

≪2 月くまはく誕生祭の催し≫
【催事名】　**「くまはく誕生月間イベント（2 月）」**
【目　的】　昭和 27 年（1952）年 2 月 4 日に開館した熊本博物館の誕生月にちなみ、2 月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。
【内　容】　各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。
【対象者】　各事業により対象は異なる（幼児から一般向けまで様々）。
【期　間】　令和４年２月の土・日・祝日の予定　※日程調整中

《計画内容　以下を参照（一部）》

【事業名】　**西南戦争遺跡巡り**
【内　容】　熊本城炎上日（2 月 17 日）にあわせて、西南戦争に関係する段山や城内の遺跡を巡る。
【対象者】　一般
【期　日】　令和４年２月 17 日（木）※日程調整中

【事業名】　**魚の解剖を見てみよう！**

【内　容】　タイプの違う2種を解剖して比較する。

【対象者】　一般

【期　日】　令和4年2月土日祝のいずれか　※日程調整中

【事業名】　**くまはくバックヤードツアー**

【内　容】　熊本博物館の裏側を巡りながら、資料収集や保存方法を見学してもらう。

【対象者】　一般

【期　日】　令和4年2月　※日程調整中

（２）学校教育支援事業

【事業名】　**ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）**

【目　的】　博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

【内　容】　主に小学校「社会科・理科」の授業を中心に、学芸員・研究員をゲストティーチャーとして派遣する。各分野の専門性や所管資料を生かし、実施可能な範囲で担任の指導を補佐しながら学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める。

令和2年度は、試行的に遠隔授業（Zoom活用）を実施しており、今後も授業内容や状況に応じて取り組む。

※令和2年度中に「プログラム集」を改定・配布。

※小学校・中学校の共通題材として、総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣もあり。

【対象者】　主に熊本市内の小中学校の児童・生徒・教職員（92小学校、42中学校）

【期　間】　令和3年度（通年）

【事業名】　**学校PTA活動支援/社会教育施設開催講座協力**

【内　容】　自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級PTA活動や公民館講座などに講師として参加し、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。

※子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、共に活動を楽しむ。

【対象者】　主に小・中学生

【期　間】　令和3年度（通年）

【事業名】　**館内学習支援活動（お迎え事業）**

【目　的】　「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで座学後に行う館内見学（学習）への興味・関心を高める。

【内　容】　見学オリエンテーションの際に、館内展示物の魅力や価値を紹介し、館内見学（学習）への期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。団体予約時に館内学習プログラム集の中から1～2題材（1題材：15分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施する。

※令和3年度中に「プログラム集」を改定・配布予定。

【対象者】　小中学校団体全般（市内・外）

【期　間】　令和3年度（通年）

【事業名】　**博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）**

【目　的】　小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。

【内　容】　上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行する。館内スケジュールについては学校と相談して決定することを基本とし、プラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学等、博物館及び当館周辺での滞在時間を4時間程度に拡大して実施予定。

（令和元年度は2時間半程度で実施）

【対象者】　富合・植木・城南地区の小学校：12校の中学年児童・教職員

【期　間】　令和3年度（通年）

【事業名】　**理科実験事故防止講習会（市教委指導課主催）**

【目　的】　理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うとともに、実技指導を通して教師自身の技能向上に寄与する。

【内　容】　近年起こっている実験事故の事例紹介と対策講話、火気・薬品・ガラス器具等の取り扱い方に関する実演指導を行う。例えば、アルコールランプの操作やガ

ラス器具の加熱方法、気体を発生させる実験過程での留意点等について実技を交えながらポイントを伝える。

【対象者】　小中学校教師（教職員研修）

【期　間】　令和３年５月中に計２回実施予定　※日程調整中

【事業名】　**教職員研修等への協力支援（主催・参画・協力等）**

【目　的】　学校教育支援事業を補完する諸活動を実施し、博学連携の一層の充実を図る。

【内　容】　教職員としての資質・能力の向上に資するための協力支援を行う。

・夏季休業中の教職員講座「館内プログラム解説編」

・小中学校「理科実験・事故防止講習会」（再掲）

・指導課・教育センター主催講座への協力

・教科等主任会（社会・理科主任会等）からの要請講座実施

・教職員（及び中学生）の社会体験研修受け入れ

・教員のための博物館の日（※）実施協力

※博物館活動に親しむ機会を設け、博物館の資料や事業は「授業に活用できる貴重な学習指導の資源」であることを体験的に伝える。

・その他、上記の目的に沿う活動への協力

【対象者】　教職員

【期　間】　令和３年度（通年）

【事業名】　**子ども科学・ものづくり教室**

【内　容】　主に小中学生を対象に「科学実験や科学工作」などの直接的な体験活動を通して、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（ 歴史や文化に関する内容も一部含む ）について学ぶ機会を提供。

※子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）を蒔く。色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした科学実験・科学工作のほか、他分野の学芸員との連携による内容の充実を図る。また、大学や高専、教育サークル、NPO 団体との協働イベントも実施し、より魅力的な運営を行う。

【対象者】　主に小中学生

【期　間】　令和３年度（通年）

（３）博物館実習受け入れ

【事業名】　<u>博物館実習</u>

【目　的】 博物館は､学芸員をはじめとする博物館に関わる人材を育成する責務を有しており、職員自身も実習生の指導を行うことで、学芸員としての基礎･基本を再確認できる。このような実習受け入れを通して、当館の質の向上につなげるもの。

【内　容】 文部科学省作成の｢博物館実習ガイドライン｣に基づき､実習生の受け入れを行う。

・実習生は公募受付け

・当館の実情を踏まえたカリキュラムを作成

・評価項目は「出席状況」「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」

・実習期間は 8 月～9 月（6 日間）

・受け入れは自然系 10 名、人文系 8 名

ウ　保存修復事業

【事業名】　<u>ガラス乾板スキャン業務委託</u>

【目　的】 館所蔵ガラス乾板のスキャニングを行うことにより高解像度の画像データを作成し、保存する。

【内　容】 熊本博物館所蔵ガラス乾板（通称山崎アルバム）は、故・山崎正董氏が旧蔵していたガラス乾板の複写板で、全 86 枚の明治初期の熊本を撮影した貴重な画像記録。画像データ作成後は R4 年度以降、報告書等に成果をまとめる予定。

洋学校教師寓居

古城医学校生徒

エ　施設整備事業

【事業名】　<u>熊本博物館屋根及び外壁改修工事</u>

【目　的】　リニューアル改修後、発生した雨漏りに対する改修工事及び平成 29 年度に先行して実施した外壁改修の未対応部分の改修工事を行うもの。

【内　容】　≪屋根改修≫

既存銅板葺きを残し、防湿用としてアスファルトルーフィング、緩衝材、金属板で屋根全体を覆う「カバー工法」にて施工。

≪防水改修≫

既存防水層の不良部分のみを除去し、適切な下地処理を行い、新規防水層をかぶせて施工する。

≪外壁改修≫

平成 29 年度（2017 年度）外壁改修の未着手部分の改修工事。

※当初、外壁改修は 2023 年度に計画をされていたが、費用面や来館者への影響等を考慮し、同時期に施工することとなった。なお、工事期間中は閉館せず、来館者への配慮を行いながら改修工事を行う。

【期　間】　令和 2 年 10 月～令和 3 年 9 月（施工中）

契約額　260,194 千円（令和 2 年度 104,078 千円、令和 3 年度 156,116 千円）

≪参考≫

件名	R02												R03						
熊本博物館屋根及び外壁その他改修工事	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
準備																			
外壁・屋根足場架け																			
屋根改修工事																			
屋根足場撤去																			
防水改修工事																			
外壁足場撤去																			
外壁改修工事																			
完了検査																			

オ　塚原歴史民俗資料館関係

（１）展示活動（企画展等）

【事業名】　**「(仮）収蔵資料展」**

【目　的】　郷土の歴史や文化財についてより深く知ってもらうもの。

【内　容】　常設していない塚原歴史民俗資料館が収蔵する考古資料を展示。期間中は、ミュージアムトークや来館者向けの体験教室等も実施予定。

【対象者】　一般

【期　間】　令和 3 年 12 月～令和 4 年 2 月まで（60 日間）　※日程調整中

（２）資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

【事業名】　**考古学講座**

【目　的】　講義を通して、学ぶ楽しさや考古学への興味をもってもらい、文化財愛護心の高揚を図る。

【内　容】　考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年 11 回開催（内 2 回は通年 2 講座と合同)。熊本市文化財課や熊本県文化課、熊本城調査研究センター等の職員に依頼し、最新の発掘調査成果等の話を織り込む。

【対象者】　一般

【期　間】　令和 3 年 5 月～令和 4 年 3 月　※日程調整中

【事業名】　**古文書講座**

【目　的】　古文書の解読を通して時代背景を知ることにより、歴史のおもしろさを学ぶ。

【内　容】　館外講師に依頼して実施。年間テーマに沿って、古文書の解読や時代背景について学ぶ。年 11 回開催。(内 1 回は通年 2 講座と合同)

【対象者】　一般

【期　間】　令和 3 年 5 月～令和 4 年 3 月　※日程調整中

【事業名】　中学校社会科回顧講座**「思い出してみよう‼中学校社会科学習」**

【目　的】　中学校で習った社会科の内容を、改めて楽しみながら学習する。

【内　容】　プレゼンテーションを活用した選択クイズ形式で、楽しみながら学習する。
なお、「地理」「歴史」「公民」についての講座も開催予定。
※月 1 回、全 11 回を予定。(内 1 回は通年 2 講座と合同)

【対象者】　一般

【期　間】　令和３年５月～令和４年３月　※日程調整中

【事業名】　**学芸員と歩く野外博物館**

【目　的】　塚原歴史民俗資料館周辺に残る豊かな自然や文化財を訪ね、その魅力を実感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。

【内　容】　塚原歴史民俗資料館周辺の野草観察や遺跡の探訪。

【対象者】　一般

【期　間】　令和３年４月及び令和３年10月　※日程調整中

【事業名】　**各種体験教室（土器づくり・勾玉づくり・埴輪づくり・古代織づくり・編布づくり・藍染）**

【目　的】　各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。

【内　容】　熊本市に所在する資料などを基に作成した体験道具を使ったモノづくりや昔遊び、伝統的手法を体験する。

【対象者】　一般

【期　間】　令和３年５月～令和４年３月　※日程調整中

議事

（4）SNS 等を活用した情報発信について

ア　広報活動（ＳＮＳ等）

【事業名】　ＳＮＳ等を活用した広報及び学習情報の発信

【目　的】　昨今の感染症の流行により、政府は国民に対し「新しい生活様式」を求めており、博物館運営においても大規模な集客イベントの実施が難しくなっている。従来のような集客が見込めない状況において、来館者数だけに頼らない新たな博物館の存在価値を創出するため、幅広い世代のコミュニケーションツールとして利用されているＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、積極的な広報や学習情報を発信する。

【内　容】　館公式の「ホームページ」をはじめ、「Twitter」、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」「LINE」等をフルに活用し、様々な「世代」「地域」「嗜好」等に合わせた発信を行う。

- ・Youtube　収蔵品や展示品、企画展、講座・教室の情報等（動画）
- ・Twitter　リアルタイム性と情報拡散力の高い情報等（文字、画像）
- ・Facebook　オールラウンドな情報等（文字、画像）
- ・Instagram　ビジュアル性の高い画像等（文字、画像）

≪参考≫　※令和 3 年 3 月 23 日時点

公式　YouTube チャンネル

チャンネル登録者数 424 人

公式　Twitter

フォロワー数 1,826 人

公式　Instagram

フォロワー数 198 人

公式 facebook

フォロワー数 138 人

熊本市塚原歴史民俗資料館　公式 facebook

フォロワー数 192 人